美術科学習指導案

日　時　令和７年 12 月 19 日(金)
　　第５校時 13:20～14:10
学校名
対　象　第１学年　組　名
会　場　美術室
授業者

１　題材名　「使って嬉しいトートバッグ」

A表現(1)イ(ｱ)(2)ア(ｱ)(ｲ)、B鑑賞(1)ア(ｲ)、共通事項(1)ア、イ
(光村図書　美術１　P46、47、52～53)

２　題材の目標

(1)「知識及び技能」に関する目標

・　形や色彩、材料などが感情にもたらす効果を理解するとともに、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風でとらえることを理解する。

・　材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すとともに、制作の順序などを考えながら、見通しをもって表す。

(2)「思考力、判断力、表現力等」に関する目標

・　装飾の目的や条件などを基に，使う人の気持ちや用いる場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて機能と調和のとれた美しさなどを考え、トートバッグのデザインの構想を練る。

・　目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の表現の意図や工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。

(3)「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

・　美術の創造活動の喜びを味わい、使う目的や使用する者の気持ちを考えてトートバックのデザインを行う表現の学習活動に楽しく取り組もうとする。

・　美術の創造活動の喜びを味わい、使う目的や機能との調和のとれた美しさを感じ取る鑑賞の学習活動に楽しく取り組もうとする。

３　題材の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　形や色彩、材料などが感情にもたらす効果を理解するとともに、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風でとらえることを理解している。 ②　材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すとともに、	①　装飾の目的や条件などを基に、使う人の気持ちや用いる場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて機能と調和のとれた美しさなどを考え、トートバッグのデザインの構想を練っている。 ②　目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作	①　美術の創造活動の喜びを味わい、使う目的や使う人の気持ちを考えてトートバックのデザインを行う表現の学習活動に楽しく取り組もうとしている。 ②　美術の創造活動の喜びを味わい､使う目的や機能との調和のとれた美しさを感じ取る鑑

制作の順序などを考えながら、見通しをもって表している。	者の表現の意図や工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	賞の学習活動に楽しく取り組もうとしている。

4　指導観

(1)　題材観

本題材は、中学校学習指導要領(平成 29 年３月告示)　第２章　各教科　第６節　美術

第２　各学年の目標及び内容

〔第１学年〕　２　内容

A　表現

(1)　表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。

イ　伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ｱ)　構成や装飾の目的や条件などを基に、対象の特徴や用いる場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練ること。

(2)　表現の活動を通して、次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。

ア　発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ｱ)　材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。

(ｲ)　材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表すこと。

B　鑑賞

(1)　鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。

ア　美術作品などの見方や感じ方を広げる活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ｲ)　目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。

〔共通事項〕

(1)　「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

イ　造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

を受けて設定した。

本題材は、ステンシルの技法を用いて同じ形を２回以上繰り返し、模様やリズムをつくることを条件に、トートバッグのデザインを考えて制作する。使う目的や条件、使う人の気持ちを踏まえて主題を設定し、布用絵具を用いてコットン素材のトートバッグに描く活動である。

(2)　生徒観

本校の生徒は、美術の授業に意欲的に取り組んでいる。本題材に関連するデザインの学習として、１学期には身近な施設等のロゴマーク制作を行った。その学習を通して、生徒は形や色の組み合わせによってイメージを伝えることの面白さを感じ取り、身近な題材に自分の思いや考えを重ねて表現することができるようになってきた。

一方で、伝えたい内容を盛り込もうとするあまりモチーフを増やしすぎたことで、ロゴマークとしての視認性や全体のまとまりが損なわれる作品も見られた。構成全体を客観的に見る力や、どの要素を残し、何を省くかといった取捨選択の意識が十分に育っていない様子もうかがえる。また、作品のよさや工夫を言葉で説明する際に、他者の視点を踏まえて客観的に表現する力にも個人差がみられる。

このため、本題材では、ステンシルの技法による繰り返しの形や色彩の組み合わせを通して、模様のリズムや全体の統一感を意識しながら構想する力を育てる。また、使う目的や使う人の気持ちを想定する活動を取り入れることで、機能と美しさの調和を考え、客観的な視点をもって制作に取り組む態度の育成を図る。さらに、制作過程を振り返りながら友達と意見を交換する活動を通して、自他の作品を多面的に捉え、表現の意図や工夫を言語化できる力を高めていくよう指導する。

(3)　教材観

本題材は、日常的に使用するトートバッグの装飾をすることで、生活と美術の関わりを実感し、機能と美しさの調和を意識した表現を行うことをねらいとしている。

導入では、既習のロゴマーク制作での課題であった「全体のバランス」や「客観的に見る視点」に気付けるようにするため、授業者が用意した市販のトートバッグの実物や写真資料を提示する。使う人の立場になって「どのようなデザインなら毎日使いたいか」「どのような模様が心地よく感じられるか」を話し合うことで、使う人の視点に立った構想づくりへとつなげる。また、素材の見本（布地の種類や絵具のにじみ方）を実際に触れて比べる活動を通して、布の特性を理解できるようにする。

制作の導入段階では、授業者がステンシルの技法を実演し、形の繰り返しによる模様の変化や重なりの効果を視覚的に示すことで、生徒の理解と関心を高める。さらに、生徒が紙に描いたイラストや模様をスキャンしてプレゼンテーションソフト上で複製・回転・拡大縮小して構成を試す活動を取り入れる。これにより、模様のリズムや全体のイメージを事前に把握し、構成を客観的に検討する力を育てる。

学習環境としては、大きな机を囲んで班の形で制作することで、互いの構想や制作方法を見合い、学び合う機会を増やすことを基本とする。一方で、制作の進度や生徒の意向に応じて、絵の具やカッターを使う工程では十分な作業スペースを確保し、安全かつ集中して取り組めるように、個別に大きな机で作業できる体制も整える。安全面では、デザインナイフの扱い方を実演を交えて指導し、刃の向きや姿勢、作業順序を明確に示す。また、布用絵具の取り扱いにおいては、衣服の汚れ防止や絵具が乾く前に用具の洗浄を行うことを指導する。

＜　材料と用具　＞

・生徒が用意するもの	筆記用具、一人１台端末、ジャージ
・授業者が用意するもの	ディスプレイ、画用紙、コピー用紙、デザインナイフ、ラミネートフィルム、油性ペン、色鉛筆、トートバッグ、布用絵具、ステンシルブラシ、筆、スポンジ、筆洗、その他生徒が必要とする材料

５　年間指導計画における位置付け

	題材名	学習内容
第１学年	印象に残るロゴマーク	ロゴマークを制作したい身近な施設等を生徒が選び、施設等の特徴などを基に形の単純化や配色の工夫を取り入れてデザインを行い、印象に残るロゴマークを描く活動に取り組んだ。
	青ヶ島の観光ポスター制作	地域の魅力から主題を生み出し、自分の伝えたい思いが多くの人に伝わるように表現方法を工夫して、観光ポスターを描く活動に取り組んだ。
	使って嬉しいトートバッグ（本題材）	使う目的や条件、使う人の気持ちを踏まえて主題を設定し、コットン素材のトートバッグにステンシルの技法でデザインを描く活動に取り組む。

６　題材の指導計画と評価計画（全９時間 ）

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準		評価方法等
			内容	記録	
第１時	形や色彩、材料などが感情にもたらす効果を理解するとともに、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風でとらえることを理解する。 目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の表現の意図や工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。	・　市販のトートバッグや参考作品のデザインを鑑賞し、表現の意図や工夫について話し合う。 ・　「自分や他者（班員１名を教師が指定する）ならどのくらい使って嬉しいと感じるか」を１～１０で数値化する。 ・　指定した班員１名の数値と自分が想定した数値を比べ、その違いから他者の見方・感じ方を理解する。	ア① ウ② イ② ウ②	◎ ○ ◎ ○	活動の様子の観察、対話、ワークシート 活動の様子の観察、対話、ワークシート
第２時 第３時	使う人や使用目的を基に主題を生み出し、模様の繰り返しや配色の工夫を考えながら、美的感覚を働かせて機能と調和のとれた美しさなどを考え、トートバッグのデザインの構想を練る。	・　使う人や使用時に喚起したい感情などを言語化し、ワークシートに記入する。 ・　ワークシートにアイデアスケッチを描き、モチーフを取捨選択しながら３案程度考える。 ・　モチーフをステンシルに適した形に単純化・整理する。 ・　描いたスケッチをスキャンし、プレゼンテーションソフト上で複製・回転・拡大縮小し、模様の	イ① ウ①	○ ○	活動の様子の観察、対話、ワークシート

		リズムや配置を試す。 ・　班員とデザイン案を見せ合い、感想や改善点を交流することで、構想を客観的に見直す。			
第４時 第５時	ステンシルの技法の理解やデザインナイフの使い方を身に付け、意図に応じて工夫して表すとともに、制作の順序などを考えながら、見通しをもって表す。	・　ステンシルの型紙として成立するように細部の処理を工夫し、下絵を仕上げる。 ・　下絵を基に、ラミネートフィルムをデザインナイフで切り抜き、ステンシルの型紙を完成させる。	ア② ウ①	○ ○	活動の様子の観察、対話、作品
第６時 (本時) 第７時	ステンシルの技法の理解や絵具や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すとともに、制作の順序などを考えながら、見通しをもって表す。 　美的感覚を働かせて機能と調和のとれた美しさを考え、デザインの構想を練る。	・　型紙を用いて紙や端布に試し刷りを行い、模様の重なり・リズム・色の効果を確認する。 ・　トートバッグにステンシルで彩色する。 ・　絵具やスポンジの扱い方を工夫し、色の重なりやにじみを調整する。 ・　班員の作品を鑑賞し、班員の意見を参考にしながら修正点を見いだす。	ア② ウ① イ① ウ②	○ ○ ○ ○	活動の様子の観察、対話、作品 活動の様子の観察、対話、作品
第８時	材料や用具の生かし方を身に付け、意図に応じて工夫して表すとともに、制作の順序などを考えながら、見通しをもって表す。 　美的感覚を働かせて機能と調和のとれた美しさを考え、デザインの構想を練る。	・　完成度を高めるために最後の見直しと調整を行う。 ・　機能と美しさの調和を意識しながら、全体のまとまりを整える。	ア② ウ① イ① ウ②	◎ ○ ◎ ○	活動の様子の観察、対話、作品 活動の様子の観察、対話、作品
第９時	形や色彩、材料などが感情にもたらす効果を理解するとともに、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風でとらえることを理解する。	・　自分の作品を１～２分程度でプレゼンテーションする。 ・　プレゼンテーションを聴く際には、鑑賞の視点を示した上で、ワークシートに「良いと思った点」を記入する。	ア① ウ②	◎ ○	活動の様子の観察、対話、作品、ワークシート

	目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の表現の意図や工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。	・ 発表後、聴き手が一人ずつコメントや質問を述べ、作者が答える。 ・ 全員の発表後、教師がトートバッグ以外の繰り返しパターンや、使う人が嬉しくなるデザインの例を紹介し、学んだことが社会でどのように生かされているかを考える。 ・ ワークシートに制作のまとめを書く。	イ② ウ②	◎ ◎	活動の様子の観察、対話、作品、ワークシート

○ 題材の評価規準に照らして、適宜、児童・生徒の学習状況を把握し指導に生かす。

◎ 題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を記録に残す。

7 指導に当たって

(1) 指導内容や方法、学習形態等について

ステンシルの技法の実演やプレゼンテーションソフトを活用した構想の可視化を取り入れ、生徒が模様のリズムや全体の統一感を客観的に検討できるようにした。小人数のよさを生かし、構想段階では互いの案を見せ合い、制作段階では個別に十分な作業スペースを確保するなど柔軟に学習形態を工夫した。鑑賞・まとめでは一人ずつプレゼンテーションを行うことで、表現を言語化しやすくし、聴き手のコメントを取り入れながら学びを深めることができるようにした。

(2) 主体的・対話的で深い学びについて

導入の鑑賞活動では「どのようなデザインであれば使って嬉しいか」という発問を行い、生徒が使う人の立場で考えられるようにした。また、スケッチやデジタル試作の段階で友達と見せ合い、意見を交換する活動を取り入れることで、他者の視点を踏まえて自分の構想を見直す機会を保障した。さらに、鑑賞・まとめではワークシートを用いた感想記入と発表・質疑を組み合わせることで、互いの作品の意図や工夫を深く理解し合う場を設定した。

(3) 班テーマ「生徒が主体的に取り組む授業づくり～わたしが決める美術の時間～」との関連について

本題材では、使う人や使用場面を自分で決めて構想を練る活動を取り入れることで、生徒が主体的に学習に取り組めるようにした。また、ステンシルの技法を通じて自分なりの模様やリズムを工夫する活動を設定し、デザインを自ら選択・決定する喜びを味わえるようにすることで、「わたしが決める美術の時間」という班テーマに迫ることができるようにした。

8 本時（全９時間中の第６時）

(1) 本時の目標

ステンシルの技法の理解や絵具や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すとともに、制作の順序などを考えながら、見通しをもって表す。

(2)　本時の展開

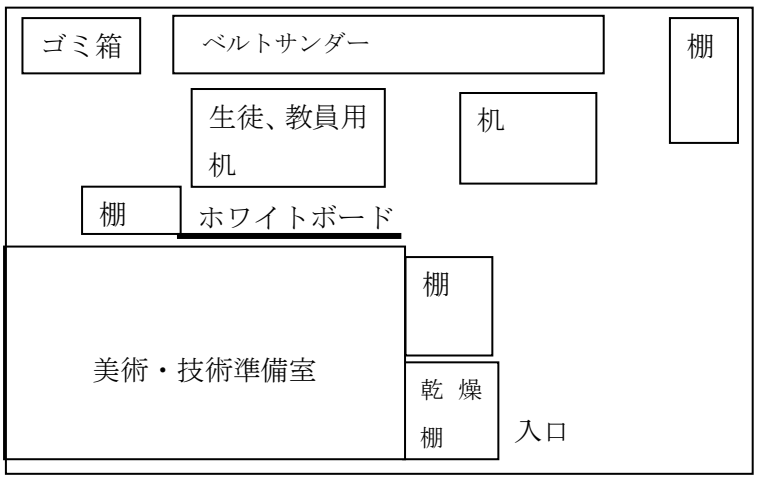
時間	○ 学習内容　・ 学習活動	◇ 指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 5 分	○　本時の目標、流れを確認する。 ・　本時の学習について見通しをもつ。	◇　ホワイトボードに本時の目標を明示する。	
展開 40 分	○　ステンシル型の制作、試し刷り、トートバッグへの本刷りなどを通して、形や色の重なり、配置の工夫を試み、自分の意図に合う表現を追求する。 ・　型紙を完成させたり、試し刷りをして色の表れ方や重なり方を確かめたりしながら、表現を工夫する。 ・　他の生徒の制作の様子を見て、良い点や工夫を見つけ、自分の表現に生かす。	◇　生徒一人一人が自分の進度や課題を踏まえて次に行う作業を判断できるよう、必要に応じて助言や支援を行う。 ◇　班員と作品を見せ合い、感想や改善点を交流することで、構想を客観的に見直す機会を設定する。	ア②（活動の様子の観察、対話、作品） ウ①（活動の様子の観察、対話、作品）
まとめ 7 分	・　使用した材料や用具を片付ける。 ・　ワークシートに、今回の取組や学んだことと、次回の目標や取組について記入する。	◇　本時の制作の進度状況等を確認する。	

(3)　板書計画

題材名　　使って嬉しいトートバッグ　（全９時間中の第６時）
本時の目標　ステンシルの技法を生かして、自分の意図に合う表現を工夫し、よりよくしようとする。

14:03～ 片付け・まとめ

(4)　学習環境



(5)　ワークシート等

使って嬉しい
トートバッグ

1年1組　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

デザインのテーマ

使う人

使う場面

どんな気持ちになってほしい？
（元気／落ち着く／楽しい etc.）

アイデアスケッチを描こう

形(模様・繰り返しなど)で工夫すること

色彩(配色・色使いなど)で工夫すること



「使って嬉しいトートバッグ」制作シート

1年1組　　番

授業日	制作の流れ（例）	自己評価	○今回の取組や学んだこと　☆次回の目標や取組
第1回 /	参考作品を鑑賞し、使う目的や機能との調和を考えながら、表現の意図や工夫を話し合う。	1 2 3 4 5	
第2回 /	使う人や使う場面を想定し、そこから着想を得てデザインの主題やイメージを考える。	1 2 3 4 5	
第3回 /	模様や形を工夫して構成を考え、スケッチやデジタルツールを使って複数のデザイン案を描く。	1 2 3 4 5	
第4回 /	形を単純化したり繰り返したり工夫して、模様をステンシルシートに描く。	1 2 3 4 5	
第5回 /	デザインナイフを安全に使いながらステンシルシートを切り抜き、模様の構成を仕上げる。	1 2 3 4 5	
第6回 /	色の試し塗りを行い、色彩の組み合わせが感情にもたらす効果を考える。	1 2 3 4 5	
第7回 /	色の重なりや塗り方を工夫して、模様にリズムや統一感をもたせながらトートバッグに表現する。	1 2 3 4 5	
第8回 /	使う目的や機能と調和した美しさを意識して作品を完成させる。	1 2 3 4 5	
第9回 /	お互いの作品を鑑賞し、作品に込められた表現の意図や工夫を感じ取る。	1 2 3 4 5	

○クラスメイトの作品を鑑賞して、表現の意図や工夫を感じ取りましょう。以下の鑑賞の視点から、２つ以上選んで、良いと思ったポイントについて書こう。

鑑賞の視点

★色の使い方　（配色の工夫・色の組み合わせの効果など）
★形・モチーフの工夫　（扱ったモチーフにどんな特徴があるか、形の面白さなど）
★構図・レイアウトの効果　（どこに目が行くか、バランス、余白の使い方など）
★思いや意図をどう表現しているか　（思いを形にするための工夫など）

名前	良いと思ったポイント

○制作の振り返りを書こう。
作品制作を通して、工夫したこと、学んだこと、感想を含めて書くこと。

(6)　授業観察の視点

- 　ステンシルの技法を生かして表現する中で、生徒が自分の意図に合う形や色の重ね方を試しながら、表現方法を主体的に選択・決定する姿が見られたか。
- 　教師の関わりが、生徒の主体的な判断や表現の工夫を引き出すものになっていたか。
- 　他の生徒の制作を参考にする場面が、互いの学びを深める機会として機能していたか。